

二 院政を支えた荘園

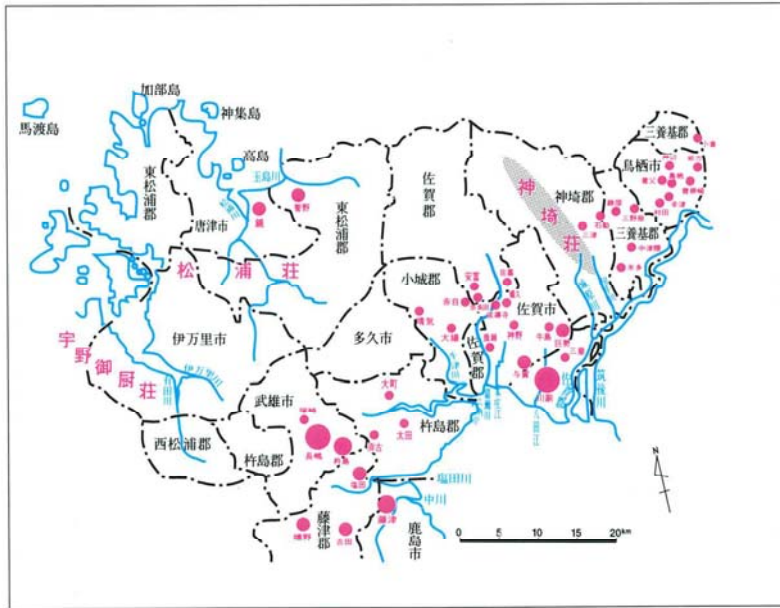
— 宋船が来航した神埼荘 —

一九八九年、神埼郡にある吉野ヶ里遺跡が全国的に脚光を浴びました。周囲に深い濠と柵をめぐらせた環濠集落跡から物見やぐら、たて穴住居、高床倉庫の跡が発掘され、さらに王のものとされる墓や一般の人々が葬られたかめ棺などが見つかり、これが中国の歴史書「魏志」の倭人伝に書かれた邪馬台国の様子に似ていたことから、話題を呼んだのです。現在では社会科の歴史的分野の教科書にも載り、たくさんの観光客が訪



神埼荘の位置

れ、国営歴史公園として整備されることになっています。この吉野ヶ里遺跡がある神埼郡に平安時代、神埼荘という荘園がありました。荘園というのは、中央の皇室や貴族、寺社などが地方に持っている領地のことです。七四三年に出された墾田永年私財法により、新しく開いた土地は私有できるようになり、領地の開発が始まりました。領地の経営のための事務所や倉庫を「荘」と呼んだことから荘園の名が起りました。その後、有力な豪族の中には、地方の役人である国司の重い税の負担から逃れるため、自分の土地を中央の実力者に寄進し、荘園の



佐賀県の荘園の分布

管理を行う荘官となった者もいました。各地の領地から送られてくる年貢や特産物が荘園領主の重要な財源となっていたのです。摂関政治を行った藤原氏や院政を行った上皇、さらに平安時代の末期に活躍した平氏はたくさん荘園を持っており、政治の実権をにぎっていたのです。

それでは、佐賀県にはどのような荘園があったのでしょうか。院政期に上皇たちが京都に建てた有名な六勝寺の一つ、最勝寺の荘園だった川副荘(川副町)、一〇〇〇一体の千手観音像があることで有名な蓮華王院

(三十三間堂)の荘園だった長嶋荘(武雄市)、それから、

菅原道真を祭り、学問の神様として有名な太宰府天満宮の荘園だっ

た佐嘉荘(大和町)や鳥栖荘(鳥栖市)などが代表的な荘園です。

さて、このような佐賀県の中でも最大の規模だったのが、

皇室領荘園だった神埼荘です。鎌倉時代の記録によれば、三〇〇〇

町歩(約三〇〇〇ヘクタール)の面積があり、現在の神埼町を中心

に三田川町、千代田町、東脊振村、脊振村、そして佐賀市の一部に

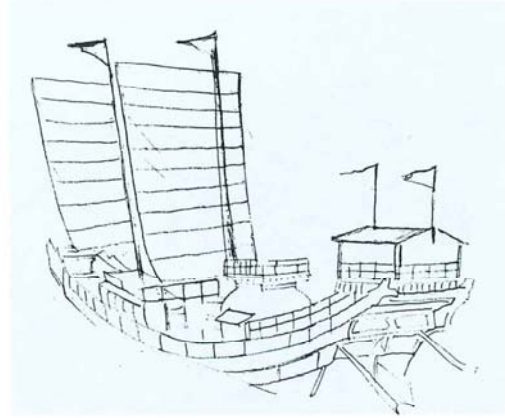
及んでいました。八三六年、神埼郡内の未開発の土地六九〇町が皇

室の領地になりましたが、それをもとに神埼荘が成立したと考えら

れます。その後、豪族の寄進を受けて、広くなっていったのでしよ

う。皇室の荘園の中でも規模が大きく、重要な荘園とされていたよ

うです。



宋船の想像図

一一三三年、一艘の宋船がこの神埼荘に來航しました。日宋貿易を行うためです。この貿易で、宋銭や陶磁器、絹織物などが日本にもたらされました。当時は九州の博多が主な貿易港で、その昔「遠の朝廷」といわれ、九州をまとめ大陸との交渉にあたってきた大宰府が、貿易の管理を行っていました。まず、朝廷が必要とするものを先に買い上げ、その後、民間に貿易を許すというシステムでした。しかし、この時、鳥羽上皇に重く用いられ、神埼荘の荘官にもなっていた平忠盛（清盛の父）は、大宰府の干渉を受けず、直接、宋の周新という商人と貿易を行いました。

では、周新の船は神埼荘のどこに着いたのでしょうか。神埼荘は博多に倉敷を持っており、そこに宋船は着いたのだという説があります。それは、神埼荘には櫛田神社（神埼町）という鎮守があり、博多にも同名の神社があるからです。毎年、七月に行われる博多祇園山笠で有名な博多の櫛田神社は、神埼荘から勧請されたといわれています。神埼荘から京都に送られる年貢や特産物は、途中脊振山地を越え、約四〇キロメートルの道のりを博多まで運び、櫛田神社の近くの倉敷から船に載せて運んだというのです。

一方、平安時代には、有明海の海岸線は現在よりかなり





神埼荘の鎮守だった榎田神社

北にあり、宋船は東シナ海から有明海へ入り、さらに筑後川を通って、神埼荘に着いたとする説もあります。その場所は佐賀市蓮池町蒲田津、神埼町蔵戸、三田川町下中杖などが考えられています。これらの場所からは宋の陶磁器がたくさん見つかっており、宋銭が出土している所もあります。現在のように陸上交通が発達していなかった平安時代、重いものは船を利用する機会が多かったと考えられ、水上交通は今よりさかんだったといえます。なお、神埼荘には榎田神社の他に、白角折神社（神埼町）、高志神社（千代田町）という鎮守もあり、合わせて三所大明神と呼ばれていました。これらは、神埼荘の北部、中央部、南部に位置しており、それぞれの地域の守り神として、重要な地位を占めていたのでしよう。

さて、源平合戦の後、実権をにぎった源頼朝は全国各地に守護・地頭を置き、鎌倉幕府を開きます。はじめ、神埼荘には地頭は置かれませんでした。承久の乱で後鳥羽上皇が敗れた後、幕府に没収され、有力な御家人が地頭に任命されています。さらに、元寇の際には御家人に恩賞地として与えられています。一説によると、くじで四〇〇人余りの御家人に分けられたということです。神埼荘という名は室町時代まで残っていますが、皇室の力は及んでおらず、勢力を伸ばしてきた地方の武士が支配するようになっていたと思われる。そして、奈良時代の中ごろから存在した荘園は豊臣秀吉が行った太閤検地で消滅し、大名が領主となる時代を迎えるのです。

三田川町の下中杖遺跡から出土した宋の陶磁器
(写真提供：佐賀新聞社)

